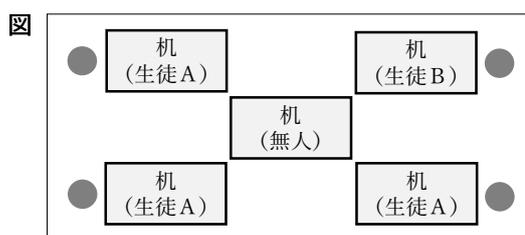


短い会話が可能な場合の45分プログラム 新型コロナ対策のプログラム例②

	ワーク名 <ワークの種類>	時間 (分)	グループ サイズ	感染症対策のポイント
1	オープニング → 本書 96 頁	3	全体	・ねらいを紙板書として用意し、最小限の説明ですませられるようにする。
2	ジャンケンチャンピオン <ほぐす> → 本書 98 頁	2	2人組	・距離を保つように指示をする。
3	カウント 77 <ほぐす> → 本書 102 頁	2	4人組	・距離をとるために、机を真ん中に置き、それを4つの机で囲むようにする配置する。
4	〇〇と言えば <つなぐ> → 本書 110 頁	4	4人組	・ハイタッチしないのであれば、アイコンタクトをしながら「エアハイタッチ」をする。
5	アドジャントーク <つくる> → 本書 130 頁	7	4人組	
6	今年の漢字 <つくる> → 本書 132 頁	10	4人組	
7	いいとこ四面鏡 <伝え合う> → 本書 134 頁	12	4人組	・形容詞を減らした簡易版のシートを作成するなど、短時間で終わるように工夫をする。
8	クロージング <伝え合う> → 本書 138 頁	5	4人組	・シート記入に留め、シェアリングは省略。

実施上の留意点

- ・会話が感染のハイリスクな状況では実施できない。それ以外の場合でも実施可能かを十分に検討し、実施する場合は学校や地域の感染症対策も踏まえること。
- ・部屋は十分な換気を行い、教員も生徒もマスクを付ける。
- ・机と机の間隔を空けたまま、基本的に対面せず顔を少し相手のほうに向けて行う。
- ・ねらいや指示、意識させたいソーシャルスキルをスライドや板書で提示するなど、声を出さなくてもテンポよく進行できるための工夫を講じる。
- ・4人班を作るときは、距離をとるため、真ん中に机を置き、周りに机を配置する(下図参照)。



- ・本紙は、大谷哲弘・粕谷貴志(2020)『かわりづくりワークショップ』図書文化、の追加資料です(無断複製禁止)
- ・実施の際は、政府や自治体が発信している新型コロナ感染症の最新情報、学校の方針を踏まえてください